

変体仮名を学ぶ

締切り 十月二十五日（必着）

◎変体仮名は今回で終わります。次回からはかなの連綿を学びます。



※高野切第三種・粘葉本和漢朗詠集などから集字しました。
 ※左下の活字は字母を示しています。

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期するため、**会員番号・成績もご記入**くださるようお願いいたします。

◎平安時代以来、一音についてたくさん
 の仮名が使用されていましたが、
 明治三十三年（一九〇〇）、小学校令
 により一字一音に整理、統一されま
 した。この仮名を平仮名とよび、そ
 れ以外の仮名を変体仮名とよび区別
 しています。

◎仮名を習う場合、まず一字一字をしっ
 かり習熟することが大切です。初心
 の方はもちろん、ベテランの方も今
 一度初心に返って仮名を学びましょ
 う。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した三行を書いて下
 さい。

▼硬筆部 B5判（二五七mm×一八二
 mm）程度の紙に書いて下さい。

※こどものひろば四行用紙も可。

※用具は自由（黒色に限る）

▼毛筆部 かな用半紙に臨書して下さい。
 （拡大臨書可）

▼出品制限の対象とはしませんので、
 どなたでも出品できますが、硬・毛
 のどちらか一方に限ります。

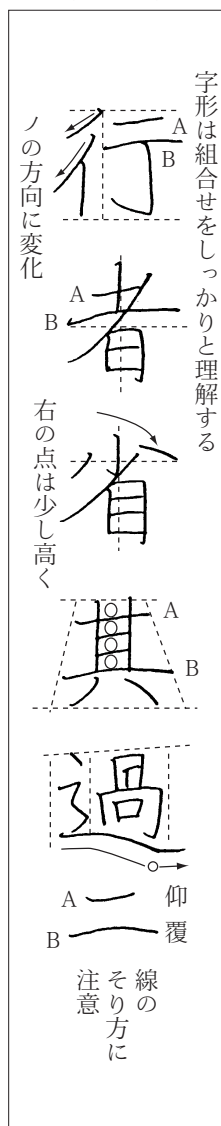
▼支部名と氏名を必ず記入のこと。

▼優秀作品数点を、写真版として成績
 表の後ろに掲載しますが、成績表で
 の順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

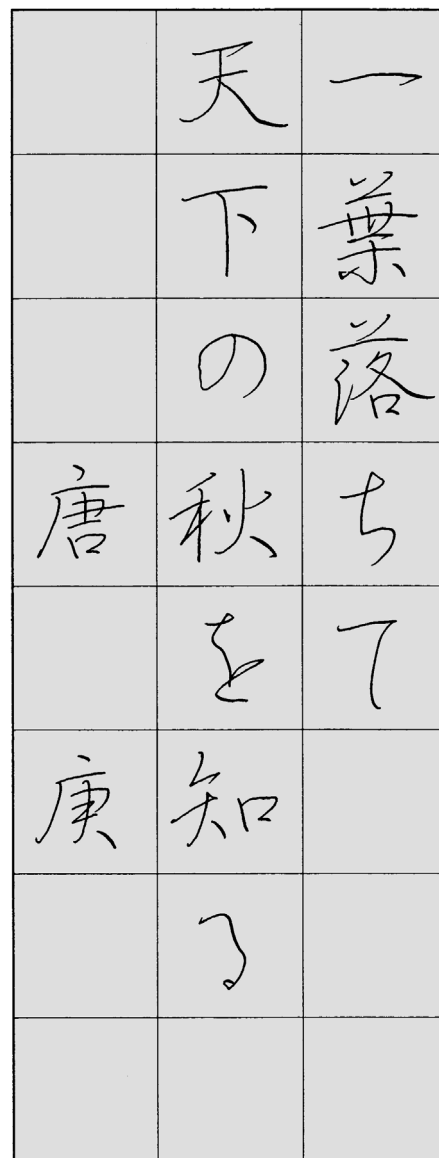
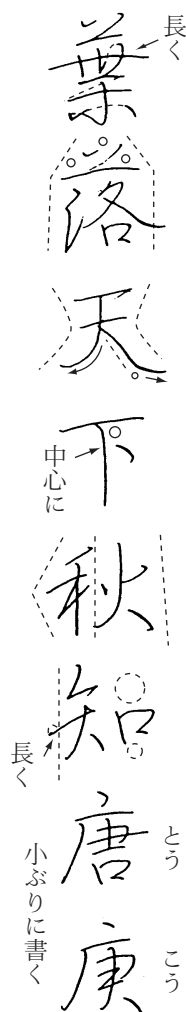
行を省みる者は
其の過ちを引かず
晏子春秋

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

- ◆11月課題予告（行草または草書）
- 清貧は常に楽しみ
- 濁富は常に愁う
- ▼教範・書範Ⅱ行書
- ▼師範Ⅱ楷書

★行を…（書体Ⅱ楷書）

晏嬰（？～前500）中国、春秋時代の齊国の宰相晏嬰の言行録『晏子春秋』に載ることば

『晏子春秋』の中に、「嬰之に聞く、行を省みる者はその過ちを引かず。実を察する者はその辞を譏らず」とあります。自分の行動を反省することを怠らない者は、同じ過ちを繰り返さないし、物の本質を見抜いている人は、ことばだけでその人を判断しないといっています。

- ◆11月課題予告（楷書）
- 女房と鍋釜は古いほど良い
- 日本の諺

★一葉…（書体Ⅱ行書）

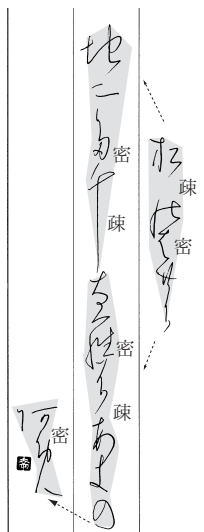
唐庚（一〇七一～一一二一）中国北宋の詩人

梧桐（アオギリ）の葉はほかの木より早く落葉するといわれますが、その葉が一枚落ちたのを見て、早くも秋が来たことを知るといふことから、察しの早いことを意味することばになりました。宋の唐庚の『文録』に見える言葉です。

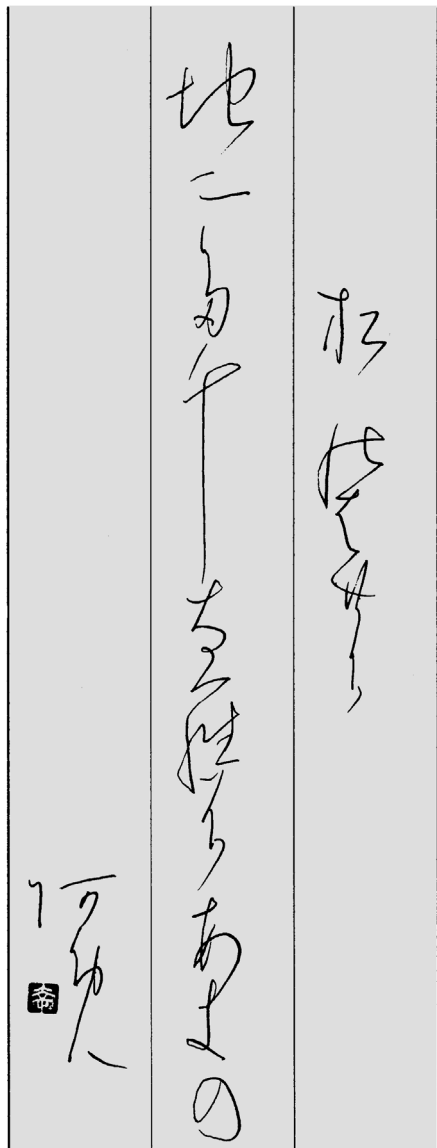
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



松の葉の地に立ちならぶ秋の雨

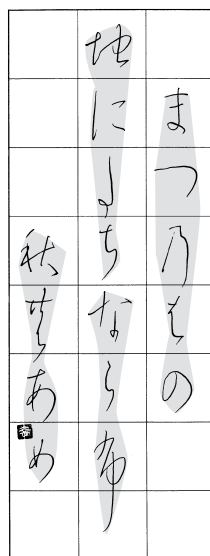


萩 田 蒼 仙 書

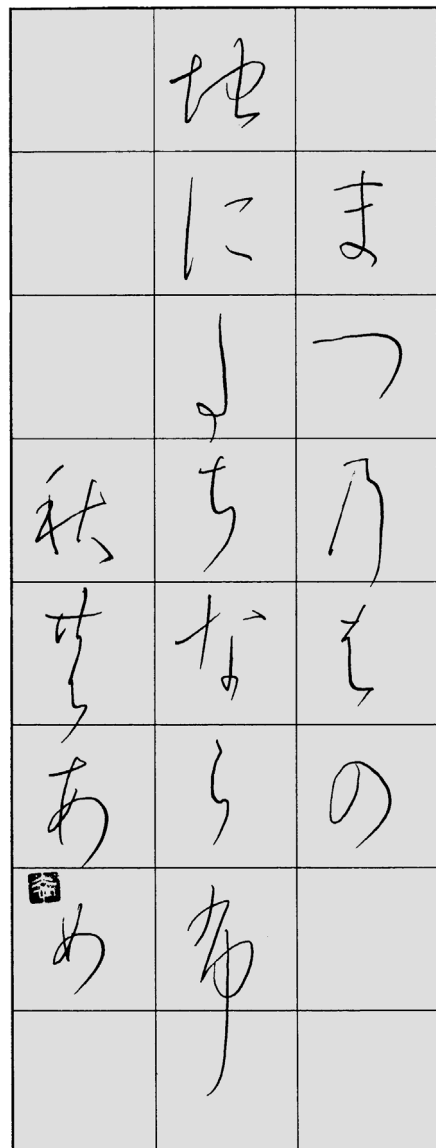
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



松の葉の地に立ちならぶ秋の雨



萩 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

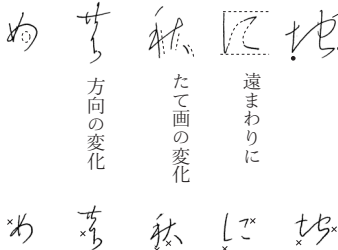
◆11月課題予告

天地の間にほると時雨かな

(素堂)

〔段位ワン・ヒント〕

連綿が多いと書きづらいと思います。が、休む場所が多くあります。一字を完全に書き切らないで次につながる部分を残して休むのです。又転折で休んで上手に(止めて休んだように見せない)書くことを会得すると、どんなに続けても苦になりません。毛筆の条幅(かなでも漢字でも)もこの要領で書いて下さい。それには先輩の書きぶりを見て会得する事が一番の早道です。研修会等で添削を受ける事も大切ですが、書きつづりを盗んで上達する事も肝要です。



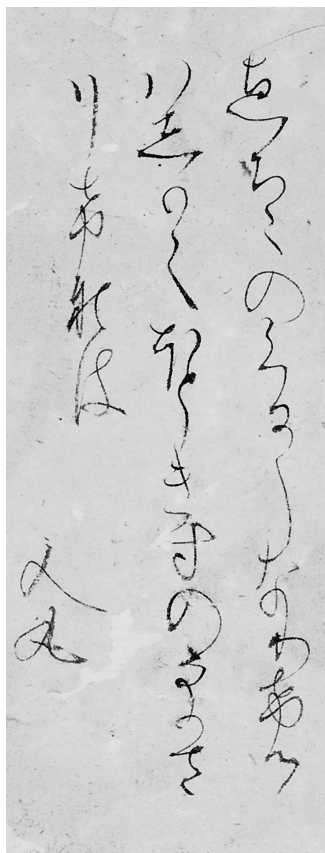
松の葉の地に立ちならぶ秋の雨 (内藤丈草)

〔句意〕松の落葉が草庵の地面につきささっている景。秋のもの淋しい風情を詠んだもの。

〔級位ワン・ヒント〕

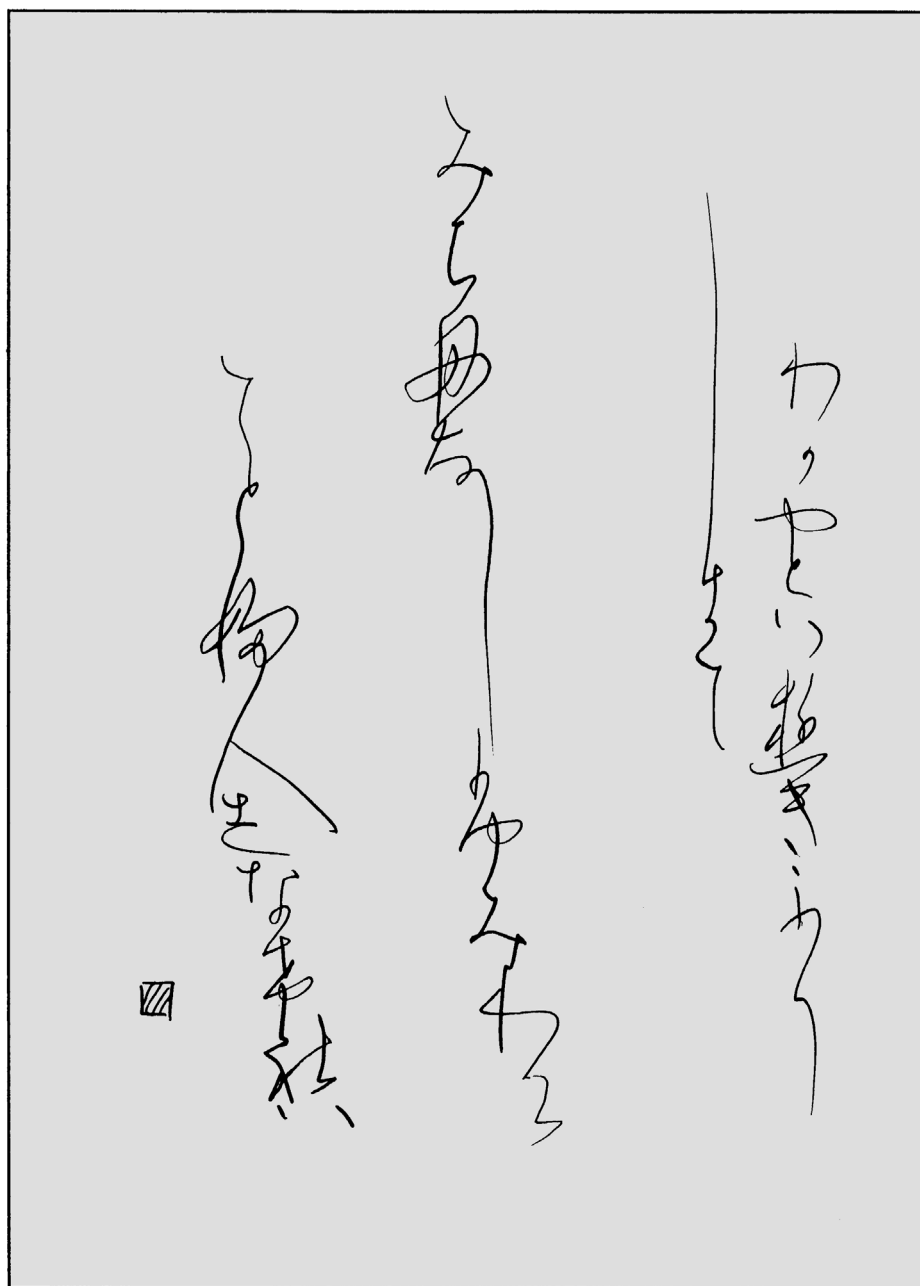
形が似ても非なるのは、線が重いものでは? 丁寧につくって書く事はよい事です。反面鈍重な作になる恐れがあります。指先に力を入れないことです。倒れない程度に持って、軽やかにスーッと運筆する訓練も必要です。

〔古筆参考〕



香紙切

恵ちごのくに、なりける
八志(あ)呂本
はじかてほとゝぎすのなかざ
りければ
人丸



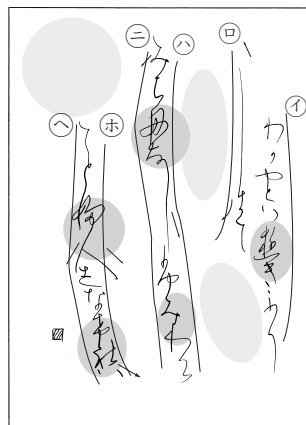
締切り 十月二十五日(必着)

築瀬舟香書

わがやは雪ふりしきて道もなし
ふみわけて訪ふ人しなれば
〔歌意〕わが家には一面雪が降り敷いて、道もないありさまだ。この雪を踏み分けてまで、訪れてくれる人はないから。

〔出典〕古今和歌集(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、②と③、②と④、②と⑤、それぞれ呼応。
- 墨の動き。
- 余白を美しく。
- 線の方角注意。

面の疎密

前回連綿で密を作る方法を述べましたが、今回は面での疎密を考えてみましょう。密を作る為には、複雑な文字形を使ったり線を太くしたり、墨量を多くしたりまた単体の「かな」で淋しくなる様な時には、何文字かを寄せて塊を作ることです。疎は縦線を多くし密と逆の方法をとる事です。今回は上図古筆から「希礼」を使いました。

◆11月課題予告

雪ふれば冬ごもりせる草も木も
春に知られぬ花ぞ咲きける

(紀貫之)

締切り 10月25日(必着)

パパ、毎日お仕事お疲れ様です。
結婚十周年の日に届いた食洗器は
手荒れで悩んでいる私に何よりも
素敵なプレゼントです。まだまだ
頼りない私ですが、これから
末永くお願いします。有難う。

パパ、毎日お仕事お疲れ様です。
結婚十周年の日に届いた食洗器は
手荒れで悩んでいる私に何よりも
素敵なプレゼントです。まだまだ
頼りない私ですが、これから
末永くお願いします。有難う。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

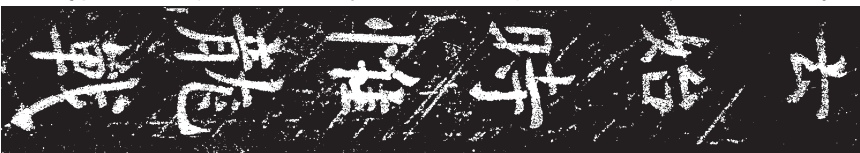
アイバンクは、昭和38年、慶応と
順天堂の両大学病院で始まった。

神奈川県横浜市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 10月25日 (必着)



〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
 〔読み〕云に始まり、時れ唯に龍戦す。



新入から1級まで（行書）
 澤さわ 静せい 雨う 書

〔読み〕秋聲金氣流る。
 〔大意〕秋の風趣が天地に満ちる。

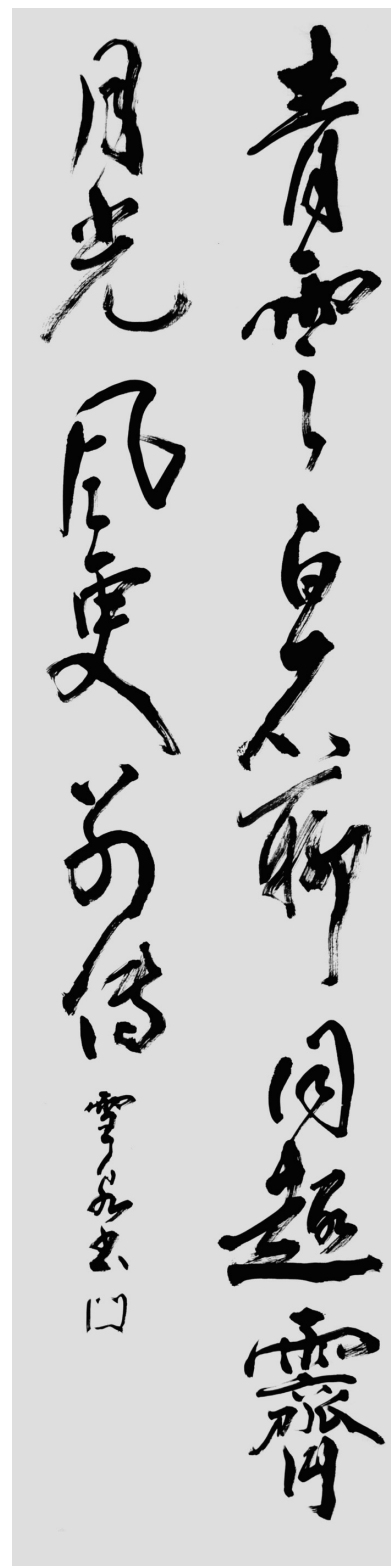
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十月二十五日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉書



青雲白雲聊同趣 月光風更別傳
朱熹
「大意」青い雲に白い石いささかおもむきを同じくするが雨後の月と風とは更にそれぞれによろしい。光風霽月は、心の高明なるにいう語。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開Ⅱ角川書道字典から抜粋しました。お手本通りでなく、字典を参考に様々なくずし方を取り入れ、自分自身の作品を作りましょう。



目にしみるような真っ青な空に子供たちの弾ける笑い声が響いてきます。台風禍から一カ月町は日にく復興しつつあります。
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

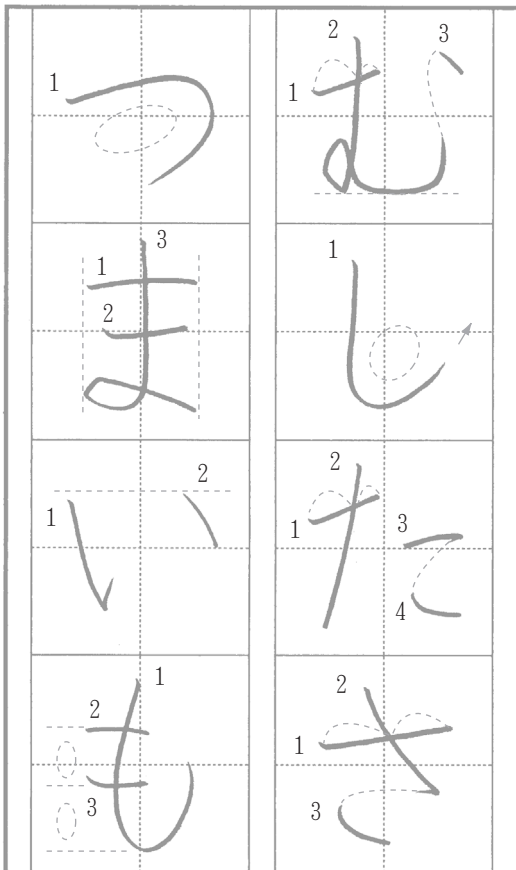
目にしみるような真っ青な空に
子供たちの弾ける笑い声が響いて
きます。台風禍から一カ月町は
日にく復興しつつあります。

中野心路

半紙（334mm×240mm）

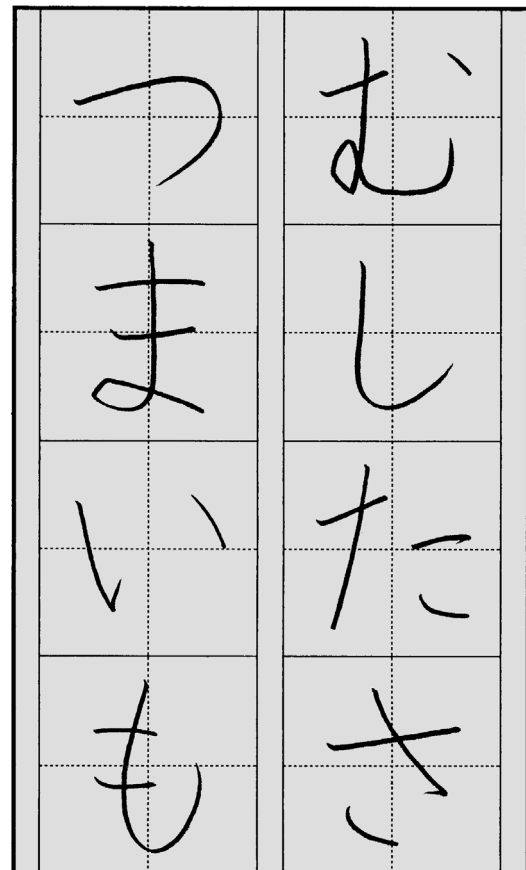
おお宮 みや 春 しゅん ちょう 書

へようぐ 自由 (黒色にかきこむ)



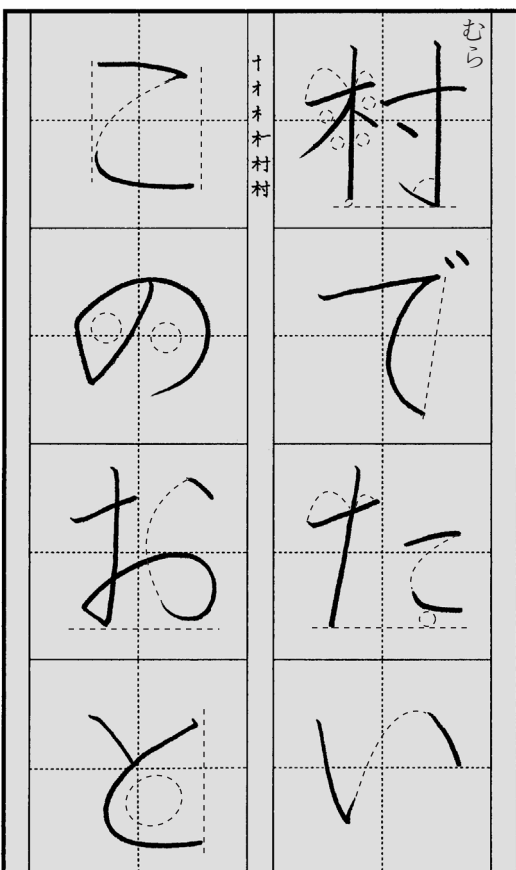
◆ひらがなトレーニング (なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

走	大
る	川
午	ぞ
後	い

新入1級

を	て	あ
走	大	せ
る	川	を
午	ぞ	出
後	い	し

小二年

準初段以上

に	住
古	む
寺	近
が	く

新入1級

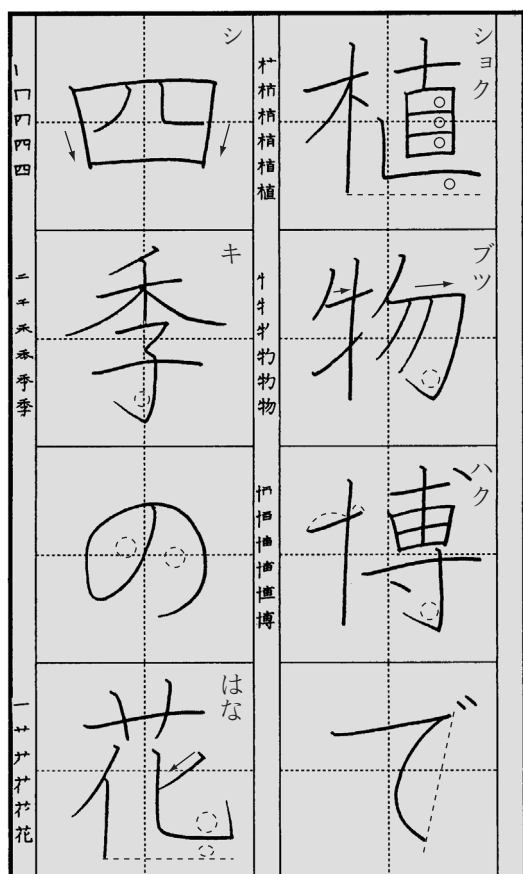
古	所	新
寺	は	し
が	近	く
あ	く	住
る	に	む

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

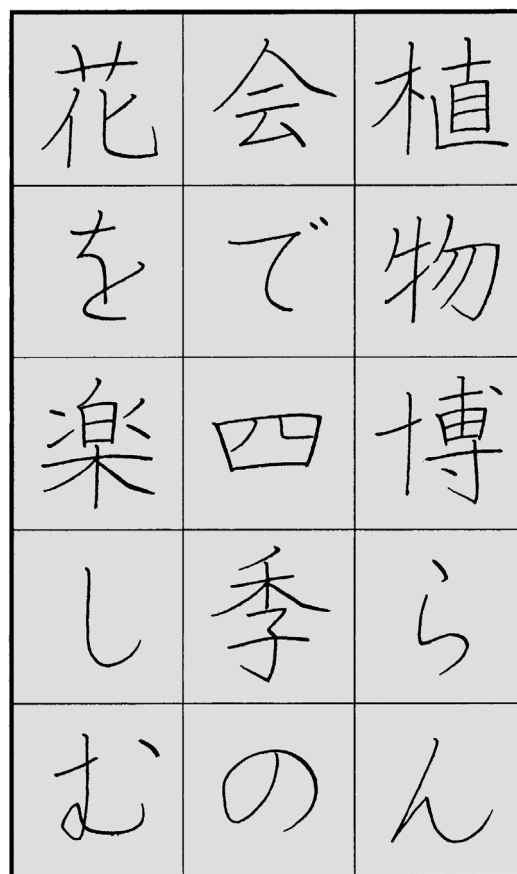
〈用具〉自由(黒色に限る)



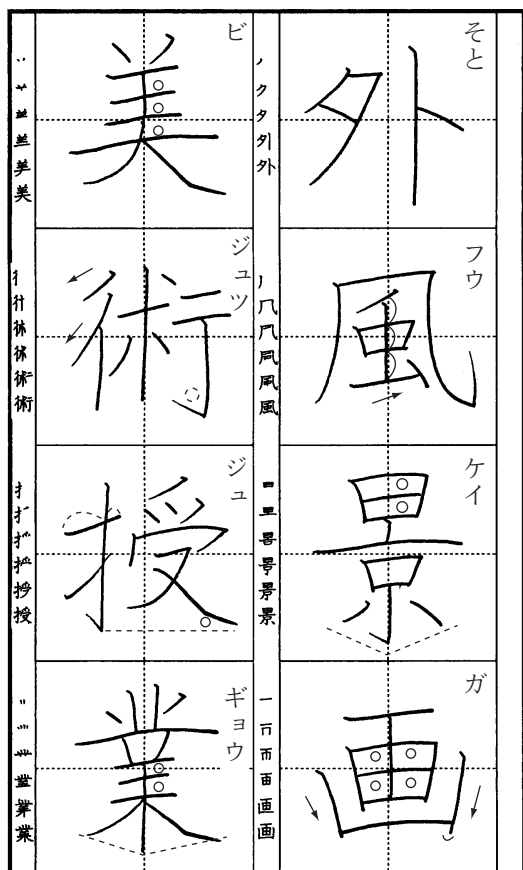
新入1級

小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)



小四以上 尾郷翠光書

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小五年

(全員)



へようぐ 自由(黒色に限る)

蒸	修
気	学
機	旅
関	行

解説(よく見て習いましょう)

に	蒸	修
乗	気	学
り	機	旅
ま	関	行
す	車	で

小六年

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

命	療	最
が	器	先
助	具	端
か	で	の
る	人	医

中二・三年 (行書)

射	ト	暴
に	の	れ
大	予	る
苦	防	ペ
戦	注	ッ

中一年 (行書)

▼小三年以下の課題 飯 沼 順 光 書

ゴ	見 ^み	走 ^{はし}	親 ^{おや}	秋 ^{あき}
ー	事 ^{こと}	っ	子 ^こ	晴 ^ば
ル	一 ^{いっ}	た	三 ^{さん}	れ
し	着 ^{ちやく}	リ	代 ^{だい}	の
た	で	レ	で	下 ^{もと}
よ		ー		
		は		
				



しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 大 坪 美 紀 書

頑 ^{がん}	読 ^よ	目 ^{もく}	読 ^{どく}	明 ^あ
張 ^ば	み	標 ^{ひょう}	書 ^{しょ}	日 ^す
る	き	の	週 ^{しゅう}	か
ぞ	れ	三 ^{さん}	間 ^{かん}	ら
	る	冊 ^{さつ}	で	始 ^{はじ}
	よう	を		ま
	う			る
				

※明日＝単語としてこのように読みます。

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、四行用紙に書く場合は、文章を収まりよく短くして下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はえんぴつ使用



小二

太川

幼年／小二年

玉樹小
華書

さい

む

太む

川お

印あたる

小一

おと



小三、小五年

水野香竹書

中二・三

器医
具療

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六

旅修
行学

射

修

なだらかに

医

旅

中心

療

とめ

防

中一

注予
射防